

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名> ICU の敗血症性ショック患者におけるカテコラミンピークの探索的研究
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野 附属板橋病院救命救急センター (研究責任者) 桑名 司
<研究期間> 機関の長の初回許可日 ～ 令和 9 (西暦 2027) 年 3 月 31 日
<対象となる方> 西暦 2014 年 1 月 1 日～西暦 2023 年 12 月 31 日の期間に当院救命救急センターで敗血症性ショックの治療を開始された方
<研究の目的> 敗血症という感染症に臓器障害が加わる重症な疾患があります。この中でも、血圧をあげる薬を使用しなければ血圧が保てない敗血症性ショックという状態は死亡率 40%にも上る重症な疾患です。細菌感染症が多いため、本研究では細菌感染症をターゲットとした研究を行います。細菌が原因の敗血症性ショックでは早い段階での適切な抗菌薬投与が有効ですが、その原因細菌に対して投与した抗菌薬が有効かどうかの判断は、細菌を培養した結果となるため、確認にだいたい 3 日後程度の時間を要します。より早く抗菌薬が有効かどうかの判断ができれば、抗菌薬の 2 剤目、変更などの判断が早くできる可能性があります。今回の研究では、血圧をあげる薬の投与している量が減ってくる時間で、抗菌薬が有効かどうかの判断ができるかを検討します。診療記録 (カルテ) を見て、必要な臨床情報を使用いたします。
<研究の方法> 2016 年定義の敗血症性ショックを満たす ICU 入室患者さんを対象に、カルテを閲覧して情報を集めます。集めた情報を用いて、対象患者さん全体の特徴を比較します。
<研究に用いる試料・情報の項目> 診療記録 (カルテ) を利用します。 診療記録から、性別、大まかな年齢、細菌が培養された検体の種類、培養された細菌の種類、血液検査や尿検査の結果、ICU 入室期間、入院の原因となった病気、血圧をあげる薬であるカテコラミンなどの薬・使用した抗生物質の種類・期間、他に使用した薬、血圧・脈拍数・呼吸数・体温などのバイタルサインを確認します。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1)

救命救急センター

氏名：桑名 司

電話：03-3972-8111

内線：(医局) 2888

(PHS) 8362

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方